

シンポジウム

日米人形交流の再検討 — 人形・交換・子ども

90年前、約1万2千体の“友情の人形”(Friendship-Doll)、いわゆる“青い目の人形”が、アメリカの子どもたちから日本へ贈られ、各地の小学校・幼稚園に配布されました。その返礼として日本から“答礼人形”が送られ、日米の子どもたちによる人形交流がおこなわれました。これは当時移民問題で悪化した日米関係の改善を目指す民間人(ギューリック、渋沢栄一)の情熱により実現した、大規模な国際文化交流です。彼らは国家という枠を超えて、子どものうちから互いの文化や生活への理解を深めることで、世界平和という夢を未来に託したのです。

今日国際社会は、グローバル化がすすむ一方で、移民問題などにゆれています。ここには90年前の日米人形交流と現代との何らかの接点を見出すことができるのではないのでしょうか。第二次世界大戦中、“友情人形”が日本で敵のスパイとして教育現場等で処分された事実は有名です。人形の交換は、どのような人間の交流を生み出してきたのでしょうか。平和・友好・相互理解をめざした日米親善交流の原点を、友情人形の皮肉な運命とともに、長崎、東京、そしてロチェスター、日米それぞれのゆかりの地で、各々のテーマをもとに、その歴史的、今日的、そして未来へ向けた意義を改めて考えてみたいと思います。



渋沢史料館所蔵

2017年7月22日(土)
13:00 ~ 16:30

会場：大妻女子大学 E棟 055

主催： 渋沢研究会・大妻女子大学博物館
特別協力： 公益財団法人渋沢栄一記念財団

入場無料（どなたでも参加できます）

プログラム

- 13:00 挨拶（主催者：大妻女子大学博物館館長・大澤清二）
- 13:10 趣旨説明 井上潤（渋沢史料館館長）
- 13:20 報告 日米人形交流の概要 是澤博昭（大妻女子大学准教授）
- 13:50 報告 人形という贈り物—人間・モノ・交換の力 宮崎広和（コーネル大学教授）
- <10分間休憩>
- 14:30 コメント 塚本隆史（みずほフィナンシャルグループ名誉顧問）
- 14:40 コメント 飯島真里子（上智大学准教授、アメリカ・カナダ研究所所長）
- 14:50 コメント 山下昭子（長崎親善人形の会会長、元長崎新聞文化部記者）
- 15:00 全体討議
- 16:10 今後の日米リレー討論会について（長崎・ロチェスター）
- 16:20 閉会の挨拶（主催者：渋沢研究会代表・島田昌和）

【総司会】飯森明子（常磐大学講師）

【シンポジウム司会】井上潤

お問い合わせ

〒102-8357

東京都千代田区三番町 12 番地
大妻女子大学 是澤博昭研究室内
渋沢研究会事務局

Tel: 03-5275-6398

E-mail: hkoresa@otsuma.ac.jp

大妻女子大学博物館

Tel: 03-5275-5739

長崎シンポジウム

2017年8月7日(月)

会場：長崎歴史文化博物館

米国・ロチェスターシンポジウム

2017年9月30日(土)

会場：ロチェスター科学博物館